

ハエトリグモの相撲：フンチとホンチ

関根 幹夫

Fighting of jumping spiders known as 'Funchi' and 'Honchi'

Mikio Sekine

This is a report on the annual spider-fighting competition in Futsu City, Chiba Prefecture, which was held on May 4, 2015 (Figs. 1–2). A similar event was held on May 3, 2016 in Yokohama City, Kanagawa Prefecture (Figs. 3–4). Two males of jumping spiders will readily fight each other like sumo wrestlers. They are known as 'Funchi' and 'Honchi', a regional dialect, in Futsu and Yokohama, respectively. The scientific name of the fighting spider is *Carrhotus xanthogramma* (Latreille 1819). This species is 7–8 mm in body length, and inhabits grasses and low shrubs. Both children and adults have searched for stronger spiders for the event.

千葉県富津市と神奈川県横浜市では、2匹のハエトリグモを闘わせる遊び（以下本稿では、ハエトリグモ相撲と呼ぶ）が、有志により伝承され、毎年5月のゴールデンウィークに大会が開催されている。今回、富津市と横浜市のハエトリグモ相撲大会取材する機会を得たので、ここに紹介する。富津市と横浜市のハエトリグモ相撲で使用されるクモは、草の葉上や低灌木に生息する体長7–8 mmのネコハエトリ *Carrhotus xanthogramma* (Latreille 1819) のオス成体である（新海2006）。富津市では、ネコハエトリのオス成体のことを「フンチ」と呼び、横浜市では「ホンチ」と呼んでいる。なお、房総半島にはフンチの他、カンキ、カネコ、ゴット、ホントなど多くの方言名がある（川名1985）。

2匹のクモをどのように闘わせるのだろうか。富津市と横浜市のハエトリグモ相撲大会を報告するに先立ち、かつての横浜での様子を、池田（1989）より引用し以下に紹介する。

春3月、子どもたちは、ネコハエトリの垂成体（「ババ」と呼ばれる）を帽子に採り、これをホンチ箱という小箱に入れ、ふところであたためる。脱皮して成体オスとなったホンチを持ち寄った子どもたちは、マッチの空き箱の中に2匹のホンチを入れ、ガラス片でふたをする。すると、2匹のホンチは、「剣」（第1脚）を振り上げ、剣先をたたき合って相手を押しまくろうとする。両者の力が接近しているときには、2匹が剣を降ろして四つに組むこともあり、この体勢は「地取り」と呼ばれる。「地取り」が終わり、再度、剣をのぼして押し合い、片方が逃げると、勝負がつく。一度負けたクモは、負けぐせがつくので、子どもたちは負けたクモを野に還した。

なお、かつての富津を含む房総半島でのハエトリグモ相撲については、上記内容と重複する部分も多いことから、本稿ではこれを紹介することを省くが、房総の漁師が漁の合間にフンチで遊ぶ様子を活写した報文がある（白土1988）。

さらに、斎藤（1985）は、ネコハエトリの行動研究に基づき、ネコハエトリのオスどうしの威嚇誇示行動を次の7段階に分けた。すなわち、

- ①注視期：視界に相手を認め、闘いの意志決定をする。
- ②前進期：剣（第1脚）を振り上げ、交互上下運動しながら相手に接近する（図4参照）。
- ③差し手争い期：剣の先端を互いにあわせ、上顎がむきだしに開き、腹部のリズミカルな上下運動をしばしば伴う。
- ④四つ組み期：③で差し手争いとなり、両上手を制した側が有利な態勢となる。
- ⑤地取り期：両者の力が伯仲しているとき、④からさらに進んで「地取り」となる。剣を降ろし四つ組み状態のまま互いに押しつ押しされながら、剣の相互組みかえをし、静かではあるが闘志を感じさせる行動をとる。場所の移動はあまりなく、もしくは徐々に移動する（図2参照）。
- ⑥第二次差し手争い期：凄絶なつばぜりあい。③と同様の差し手争いとなりつつ、時に上顎が噛みあい、腹部の上下運動も激しさを加える。
- ⑦決着期：差し手争いが再び決まり、深く四つに組みあい、上手を制した側は相手の腹部背面を剣の先端で引っかく。これによって、引っかかれた側はたまたま逃げ出す。



図 1. 富津のフンチ (2015 年). 厚紙をかざし, 土俵のクモを強い陽射しから護っている.

Fig. 1. The 'Funchi' spider-fighting in Futtsu City, Chiba Prefecture in 2015. Using a thick piece of cardboard, a man protects spiders, which are in the sumo ring, from the beating sun.

なお, すべての争いが最後まで進むとは限らず, それぞれの段階ごとに, そこまでの段階でやめることもあると報告されている.

さて, 富津市の「日本三大くも合戦・第 17 代横綱決定戦」は, 富津フンチ愛好会により 2015 年 5 月 4 日, 富津市富津の八坂神社境内で開催された. 大会参加者は 90 名, 1,000 人を超す観衆が八坂神社境内に集まった. 大会は, 一般参加の部と子どもの部に分けて行われた. 大会スケジュールは, 9 時から受付開始, 開会式の後, 10 時から 12 時まで一般予選, 昼食休憩の後, 13 時から 15 時 30 分までは横綱決定戦であった. 一般参加者トーナメント戦 (一般予選) からは上位 3 人 (匹) が, 決勝トーナメント (横綱決定戦) へと進んだ. 富津フンチ愛好会は, 世代別に 3 グループあり, ベテランの「森グループ」, 中堅の「内房富津フンチ倶楽部」と若手の「闘蜘蛛会 (とうちかい)」から構成されている. 20 代から 80 代までの 60 名ほどが, 互いに競い合っている. 会員による予選会は, 大会前日の 5 月 3 日に行われた. グループごとに上位各 3 人が大会当日の横綱決定戦に出場し, 一般の上位 3 人を加えた 12 人で決勝トーナメントが行われた. 予選会は, 会員選りすぐりのクモで行われることから, 大会よりも熱の入った試合になるという. 大会は, 八坂神社の境内に一畳の畳を敷き, この畳の上に置いた約 40 cm 四方の台上で行われた (図 1-2). 以前は, 会員どうしが自慢のクモを闘わせていたが, 2010 年の大会からは, 一般参加者を募集している. また, 小学校でのデモンストレーションを行うなど, 若手の「闘蜘蛛会」が広報・普及活動の担い手として, この地のハエトリグモ相撲を盛り上げている. 2010 年から富津市富津の埋立記念館に, フンチの歴史が展示された. このように, 富津市では伝承と同時に新たな試みがされている. 30 代の若手を中心とした「闘蜘蛛会」のパワーは, 今後の発展を予感させるに十分であった. なお, 大会名に冠した「日本三大くも合戦」とは, 富津フンチ愛好会広報担当の小坂和幸氏によると, ネコハエトリ, コガネグモとジョロウグモによる「くも合戦」の意であるという. 念のために記せば, ここでいうジョロウグモは, 標準和名のジョロウグモではなく, コガネグモの方言名である.

一方, 横浜市の「2016 年横浜ホンチトーナメント大会」は, 横浜ホンチ保存会により 2016 年 5 月 3 日, 横浜市金沢区の金沢自然公園で開催された. 大人の部に 43 名が参加し, 子どもの部は 20 名の参加であった. 大会当日の 10 時から金沢自然公園内で, ホンチ教室が開催された. これは, 横浜ホンチ保存会が子どもたちのホンチ採集を手伝い, 遊び方を教える催しである. 大会は, 公園内に設置されている 2 カ所の丸いテーブル (14-15 人掛) を囲んで行われた. 大人の部と子ども



図 2. 2匹のオスどうしは、相撲力士のように闘う。
Fig. 2. Two males of jumping spider will readily fight each other like sumo wrestlers.



図 3. ホンチ教室の旗の下に集まった横浜の子どもたち (2016年).
Fig. 3. Children gather under a flag and enjoying the 'Honchi' spider-fighting in Yokohama City, Kanagawa Prefecture in 2016.

の部の2カ所それぞれで2名の行司審判により、12時から16時過ぎまで、途中休憩なく進行した(図3-4)。試合は、2枚のバルサ板(10cm×8cm×2mm)にホンチを乗せて闘わせる方法(藤川1991)で行われていた。大人の部の準決勝で6分間も闘ったホンチは、決勝でも4分を超す大勝負をものにした。その見応えのある闘いに、観衆から万雷の拍手が巻き起こった。横浜ホンチ保存会は、1983年5月3日に横浜に伝わるホンチ遊びの伝承を目的に設立されたホンチ好きの有志の会で、現在の会員数は33名である。子どものためのホンチ教室を開催するなど、普及に努めている。横浜市の大会の翌日開催される富津市の大会にも、連日で参加する熱心な保存会会員もいることから、横浜市と富津市の交流の進展が期待できる。

なお、富津市では、茶の木にいるクモが大きくて強いという聞き取りをした。また、横浜市では参加者からの聞き取りにより、「バラボン」（ノイバラにいるホンチ）が最も強く、「ササボン」（笹にいるホンチ）は2番目に強い。「剣を研ぐ」（第1脚を第2脚にこすりつける動作のこと）ホンチは強い。さらに、マミジロハエトリのオス（「カンタ」と呼ばれる）について、この種はホンチをたおす毒グモであるという奇妙ないい伝えが現在にまで伝承されていることを確認した。これは、ホンチ遊びが盛んに行われていた昭和20年代から30年代に、横浜の子どもたちの間で言い伝えられていたものである（斎藤 1984）。なお、クモに闘う意欲がみられない場合は、富津市と横浜市ともに、ネコハエトリのメスをオスに見せていた。この工夫も、ハエトリグモ相撲が盛んに行われていた頃から伝わる方法であり、メスを見たオスどうしが果敢に闘うようになるから大変に興味深い。ハエトリグモ相撲の愛好家たちは、富津市と横浜市ともに、年に一度の大会に向け、夢中になって強いクモを探している。数日前からクモを採り、ハエを餌として与え、準備をして大会に臨んでいるとのことであった。



図4. ホンチ（ネコハエトリのオス）どうしの闘い（横浜市）。

Fig. 4. Male-to-male fray of the 'Honchi', *Carrhotus xanthogramma*, in Yokohama.

引用文献

- 池田博明 1989. クモ合戦. Pp. 195–202. In: 梅谷献二・加藤輝代子（編著），クモの話Ⅱ. 技報堂出版（東京），239 pp.
- 川名 興 1985. ネコハエトリ喧嘩民俗の宝庫・房総半島. Pp. 45–91. In: 川名 興・斎藤慎一郎，クモの合戦 一虫の民俗誌一. 未来社（東京），238 pp.
- 前川隆敏 1991. ネコハエトリのクモ合戦のさせ方. *Atypus*, 98/99: 43–46.
- 斎藤慎一郎 1984. クモ合戦の文化論—伝承遊びから自然科学へ. 大日本図書 大日本ジュニア・ノンフィクション（東京），164 pp.
- 斎藤慎一郎 1985. ネコハエトリの習性と生活史. Pp. 104–125. In: 川名 興・斎藤慎一郎，クモの合戦 一虫の民俗誌一. 未来社（東京），238 pp.
- 新海栄一 2006. 日本のクモ. 文一総合出版（東京），335pp.
- 白土三平 1988. クモ合戦. Pp. 44–47. In: 白土三平，白土三平フィールド・ノート②風の味. 小学館（東京），111 pp.